

図書館だより

今回は、江森先生と伴野先生におすすめの本の紹介をしていただきました。

江森 聖弥 先生

図書委員の生徒からオススメの本の紹介依頼を受けたので、せっかくだから文学作品以外のものを紹介します。

一つは『日本一心を揺るがす新聞の社説』です。「みやざき中央新聞」という地方の新聞の編集長が社説に書いたものを、厳選し収めています。イチローなどの有名人から名もなき人のいい話が、見開き2ページで収まっている本です。読むと、行動を変えようと思ったり、前向きにさせられたり、ほかの人に伝えたいこと請け合いです。

楽しみを得るコンテンツがたくさんあって、なかなか文字を読むことは選ばれにくくなってきています。また、最近はショート動画が流行っていますが、こちらは短くても十分に心が動く内容のもので。ぜひどうぞ。

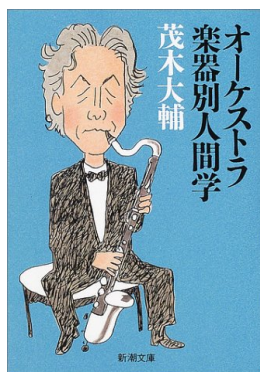
もう一つは、出口治明さんの『日本の未来を考えよう』です。例えば、「年金が破綻する」「超高齢社会」などと聞くと、印象だけでネガティブに捉えてしまい、正確な像を把握しようとしません。そんなことはありませんか？この本はそういった、印象に左右されない、「実態を見る術」を教えてください。客観的な数字と、他国(ヨコ)と過去(タテ)との比較で、様々な項目から日本の正確な状況や課題を示しています。自分の進路を考える際のきっかけや視点のヒントにもなるはず。そもそも、読み物としても楽しめます。こちらも手に取ってみては？



伴野 和章 先生

『オーケストラ楽器別人間学』(茂木大輔:著) 新潮文庫

- ♪ マチャミ(久本雅美)はヴィオラがピッタリ？
- ♪ 森にかこまれて育った純朴少年はファゴットを選ぶ！？
- ♪ トロンボーン奏者はあけっぴろげの酒豪になる！？



NHK交響楽団のオーボエ奏者である茂木大輔氏が爆笑的に論じています。これを読めば、どういふ人がどういふ楽器を選ぶのか(楽器選択運命論)、それともその人の性格は実は楽器によって形成されているのか(楽器別人格形成論)が分かるとのこと。

科学的根拠は一切なくすべて著者の主観であるので、「O型の人は大らかだ」のように、血液型診断と同様のステレオタイプ的な内容だと捉えられるかもしれません。しかし、例えばオーボエ奏者は常にリード(吹き口の振動源)の調整に神経を注ぐなど、楽器による思考の特性は少なからず考えられます。オーケストラでの長年の経験から、その傾向を著者の分析により綴ったものです。

また、著者によると“弦素”や“管素”が存在するようです。例えば、ヴァイオリニウム(VnI・ガイギウム)やフルトニウム(FI)、クラリネッチウム(KI)など…これらは完全に架空のようですが、このようなふざけた話から各楽器の特性まで幅広く書かれており、音楽好きの人は勿論、音楽に詳しくない人でも十分に楽しめるでしょう！

〈連絡〉

本を返そう。

本が借りたままになっていませんか？

返却したかわからない、借りた本がわからない、まだ読み終わらない…。

司書に聞いてみてね。
(^^)/

古い雑誌(~2022年 3月まで)

欲しい人にあげます 何冊でも!!

『装苑』『Sports Graphic Number』
『栄養と料理』『文学界』『mundi』など

*欲しい雑誌を持って、司書に声をかけてね。

*雑誌を予約していた人は、雑誌を棚から見つけて、司書に声をかけてください。



「共通テストと読解力」

生徒座談会《報告》

図書委員会のイベント係と広報係が、先日行われた共通テストチャレンジをもとに「共通テストと読解力」をテーマに座談会を行った。目的は、「文章や資料を多く読む練習」を増やしたほうがよいか否か、そして「文章や資料の読解への視線」を深く理解するにはどうしたらよいかを考えることだった。以下の内容は1年次と2年次と一緒にグループで話し合ったものと、1年次のグループが話し合ったものである。

○1、2年次グループ

まず、共通テスト体験の感想としては「難しかった」という意見が非常に多かった。英語の模試では問となる箇所アンダーラインが引いてあり、どこに着目するかある程度理解することができるが、英語リーディングの共通テストでは問となる箇所がどこを探しても見当たらないのだ。これでは、どこが大切な文なのか見分けることすら難しい。また、問題文を正確に読むことも必要になってくる。数学Ⅰ・Aでは、問題文が長すぎて求めるものが何なのか分からなくて、苦戦したと多くの人が感じていた。答案を見ると案外簡単な問題だったと感じる人もいた。求めるべきものの見極めが大切なかもしれない。また、国語は文章が複雑で、ある程度は読み取ることはできたのだが、選択肢がなかなか絞れなかったという意見があった。

全員が科目にこだわらず「読解力を向上させる必要がある」と感じた。その「読解力」を向上させるために、普段から単語を調べたり、書き出したりして「単語を身に付ける」こと、また、「重要そうなところに線を引く」こと、「小説の問題は自分の考えを取り入れない」、なんだかんだ「問題演習をして慣れる」ことが必要だという結果になった。これらは共通テストに限らず、期末考査や模試など様々な場面で応用できる。普段から心がけていきたいものである。

一方、「資料の読解」に関しては文章の読解に比べて比較的簡単だった、という意見が多く、資料の数値にさえ気を付けて読みこめば、「資料の読解力」の向上は「必要ない」という結果に至った。ただし、図やグラフから数式を求める問題などは練習する必要がある。

ただ読書をしていれば読解力は付くものなのだろうか。「そもそも『読解力』とは何なのだろうか。」この問いに対して、読解力とは、「短い時間で筆者の考えや内容を理解・把握すること」というアンサーが出た。〇〇分と限られた時間の中で、どこが重要で何を伝えたいのかを理解する。それこそが「読解力」ではないのだろうかという考えだ。また、問題には繋がらないかもしれないが、「筆者の考えから得られたものを今後の自分にどう活かしていくかということに繋げていくことも読解力の一部ではないのか」という意見も出た。いずれにしても、筆者の考えを読み取れなければ話が始まらない。

では、読解力の向上のために「読書」はどう在るべきか。読解力の向上には、「読み慣れる」ことが一番必要だ、という考えが多かった。読む際に、心情の変化や要旨を意識して読むとなお良し。だが、やはり読解力の向上には「本に手を触れてみる」ことが大切なのだと感じる。難しい本を読むのではなく、自分がおもしろそうと思った本から読んでみる。そこからだんだんと異なる種類の本を読んでいき、自分の読書の世界を広げていけば良いと思う。そうすれば、だんだんと速く読むスピードを身に付けられたり、筆者や登場人物の考え・心情を理解しやすくなったりするのではないかと思う。

○1年次グループ

図書委員会で「共通テストと読解力」をテーマに話し合いをした結果、1年次のグループでは、共通テストの文章や資料を読みこなすのは難しく、「読解力を向上させる必要がある」という意見が出た。まず、文章が長くてどこが大切なのかわからないと感じた人が多かった。文章の読解力を向上させる方法としては、「穴埋めの練習や文章力の向上を図る時間を設ける」ことが提案された。共通テストはあまりやることがない形式で、慣れていない人が多いのではないのかと考えられた。次に、資料の読解力を向上させる方法には、「資料を多く使った問題を解いたり、資料のどこを使ったら答えにたどりつくのかを先生に解説してもらいながら考える」ことなどが挙げられた。資料を使った問題も文章の問題と同様に、資料の分量が多く、どれをどう使ったら良いのか分からないとのことだった。また「文章と資料の両方を練習で扱う」ことや、「今までの共通テストをまとめた問題や、オリジナルの共通テスト対策問題をやったほうが良い」という意見も出た。

そもそも読解力というものが何かについては、「自分たちが深く理解していないことに気づき、読解力がどのような能力なのかを考え、伸ばしていく」ことも大切なことだと思われた。読書するときには、キーワードを見つけながら読んだり、何回も読んだり、内容をまとめたり、色々考えてみたりすることで、読解力向上につながるという意見が出た。